

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

二〇一五年度入試問題

# 国語

第二回（二月一日午後実施）



二〇一五年度

入学試験問題

(二月一日午後)

国語

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙十ページ、解答用紙二枚を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事がある時は、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

一

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 姿見に映す。
- (2) 易者に手相をみてもらう。
- (3) 謝辞を述べる。
- (4) 寸志を配る。
- (5) 失敗するのは必至だ。
- (6) 国をトウチする。
- (7) お顔をハイケンする。
- (8) シンロウが重なる。
- (9) キヨマンの富を得る。
- (10) キョウイを測定する。

二

次の(1)～(5)のことわざが( )の意味になるように、□にあてはまる漢字一字として正しいものを、あとのア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) □ 降って地固まる (事件があつた後は、かえって以前よりよい状態になること。)

(2) 縁えんの下の□ 持ち (人に知られないで、陰かげで苦勞すること。)

(3) 朱しゆに交われば□ くなる (人は交際する仲間によって感化されるものだということ。)

(4) 負け□ の遠吠ほえ (臆病者が陰で空威張いりしたり、他人の陰口を叩たたいたりすること。)

(5) □ 台下もと暗し (身近な事は、案外分わりかりにくいものであるということ。)

ア 力      イ 赤      ウ 雨      エ 犬      オ 灯

三

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

(著作権上の問題により文章は掲載できません。類似問題については直接お問い合わせ下さい。)

#### 四

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(なお、作問の都合上省略した部分があります。)

去年(一九九七年)の暮れ、この島の浜(注)でもおもしろいものを見つけたという話をフェニックス社の日本人スタッフであるT君から聞いた(彼は誠実かつ行動的な、いまだき珍めずらしい好青年である)。実物を持っているというので見せてもらう。少しだけ傷んだプラスチック製の容器の中に手紙が入っている。破らないように用心深く広げてみると、紙はどこどころ破れたり貼はりついたりしているが、読めなくはない。読めるかぎり(1)してみると、ざっとこんな内容――

おねがい

わたしは、ふぞく小学校の3年生です。

わたしは、このなつ、しなの川のながれをしらべてみることにしました。

しなの川のけんざかいの◎じるしからと  
うおの川の◎じるしからこのてがみを

ながしました。このてがみを

ひろって           はおてがみ

をください        みには、

いつ、どこ        何分にひ

ろったか、かいてください。

それにお名前とじゅうしょ

も、でんわばん号もかいて

ください。おてがみを

くれた人には、とても  
すてきなプレゼントを  
さしあげます。

(なまえ) ××××

(じゆうしよ) 新潟市坂井

(〒) 95

(でんわ) 02 94

(うみでひろってくれた人も

おてがみくださいね。)

1980年7月27日

××××

原文は横書き、<sup>①</sup>空白部分は失われていた。右下の部分に地図が書いてあって、◎じるしは「しなの川」の「つなん」の西、新潟県と長野県の県境あたりと、「うおの川」の「だいげんたキャニオン」のところに記してある(××××の部分に書かれていた実名はここでは伏せて、以下Sさんと呼ぶことにしよう)。

うーん、これはすごいとほくたちはうなった。十七年五か月の歳月と<sup>②</sup>直線で四四〇〇キロの距離を超えて、人が出した手紙が人に届くとは感動的ではないか。日本に戻ってから追跡調査をしてみよう。

で、以下はその調査の結果である。これは一九八〇年に新潟の小学三年生だったSさんが夏休みの自由研究の課題として流した百個の手紙(専門家は海流瓶と呼ぶらしい)のうちの一つだった。ミッドウェイで拾われたのはそのうちの九五番。

実はこの年の調査はSさんにとって不本意な結果に終わった。回答は一つしか来なくて、一週間もしないうちに新潟県大川津分水路から来たその回答によれば、容器にはすでに水が滲みていたという。海上保安庁の話ではこの種の海流瓶は新潟県や石川県、沖縄県の子供たちがよく流すが、平均的な回収率は二、三パーセント。百に一つだったSさんは(2)だった。彼女は

たぶん容器の選択が悪かったのだらうと思ひ、この年はこの研究の成果を発表するのは控えて、急遽ほかのテーマで宿題を済ませた（この時の百個のうちのもう一つが十七年後にミッドウェイに流れ着いたというわけ。容器に入った手紙にすれば、長い長い夏休みだったことになる）。

これには後日談がある。（3）のSさんは翌々年、つまり一九八二年の五年生の夏休みにもう一度おなじことを試みた。今度はプラスチックの容器ではなく、ゴム・パッキンのついた小さなアルミの弁当箱（バーゲンで一個五円！）を百個用意して、新川から流した。この時の反応がすごい。秋田県下から十通。北海道の登別、利尻島、それに年が明けてからなんとソ連領サハリンの、ドカシエンコ・ウラジーミル・アナトリエビッチさんという人から回答が来た——「Sさん、今日は！ あなたの第四十七号の手紙を九月二十九日に、サハリンのシエブニノ村から約四キロ南のところで見つけました。私はシエブニノ村に住んでいて、炭鉱で働いています。新年おめでとうございます」。ロシア語だったので市役所に持って行って訳してもらったというが、サハリンからの連絡が遅れたのも、たぶん日本語を読むのに手間取ったからだらう。ちなみにこの年は二十六通の回答があつて、回収率は二六パーセントである。この小学生の大事事件は新聞にも載つた。

（4）成績の悪かつた年の問題の容器はどういう経路でミッドウェイに届いたのだろうか。海上保安庁水路部と第九管区海上保安本部に海流のことを聞いてみた。信濃川から日本海に出た手紙はまず対馬暖流に乗って北上、その先は七割の確率で津軽海峡を通過して太平洋に出ただらうという。そこをまっすぐ北へ進んで（利尻島で見つかつた例）、宗谷海峡経由でオホーツク海へ出るコースもあるし、そこも直行すればサハリンの西海岸に至るが（これがシエブニノ村へ行った経路）、ここでは最も確率の高いコースを考えてみよう。津軽海峡から太平洋に抜けた手紙は親潮に乗って三陸沖を南下、黒潮にぶつかる（北海道の登別でみつかつた一九八二年の手紙は津軽海峡を出たところで噴火湾の沖を北上したのか。宗谷海峡を通過してオホーツク海に出た上で、国後のあたりから太平洋に出て南下したというのも考えられなくはない）。

フィリピン近海から日本に来る大きな海流が黒潮で、その先、東に向かう流れは黒潮統流と呼ばれる。これに乗ってひたすら東に進んだ手紙はやがて北アメリカ大陸の手前でカリフォルニア海流に乗りかえる。北半球の海流は基本的には時計回りに回っているから、ここからは北アメリカ大陸に沿って南下、やがて北赤道海流に入つて赤道のすぐ北を西へ西へと戻る。（5）再び黒潮で日本近海へ。



ここでものすごく大雑把な計算をしてみよう。(6)、この一周を二万五千キロとする。海流の速度を平均一ノットと仮定すると、一周に要する時間は五百六十二日、もう少し遅かったとして約二年、およそこれぐらいのスケールの話だ。十七年の間、手紙を入れたプラスチックの容器が律儀に太平洋を回っていたとすれば、七、八周はしたことになる。

(7)、言うまでもなく、ミッドウェイはこの経路から外れている。手紙はどこかで周回コースを降りて、あとはゆつくりとローカルな流れに身を任せ、少しずつこの島に近づいたのだろう。時間はたつぷり与えられていたにせよ、広大な太平洋の真ん中で小さな島にうまくぶつかり、岩場でなく砂浜に着いて打ち上げられ、(8)人の眼に触れる。ずいぶん運のいいことだし、プラスチック製の容器もよくなったものだと思う。僅かに水は入っていたが、手紙はちゃんと読めたのだから、製造元はこの耐久性を誇っている。

ぼくたちから連絡を受けたSさんがびっくりしたのはいうまでもない。(9)一九八〇年にSさんが用意した「すてきなプレゼント」は「サクラ貝と両親が作った手作りの箱」だったそうである。

(池澤夏樹『ハワイイ紀行』より)

(注) この島……ミッドウェイをさす。

問一 本文中の(1)にあてはまる言葉を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 速読      イ 熟読      ウ 誤読      エ 解読      オ 味読

問二 ———— 線部①「空白部分」とありますが、想像して空白部分を埋めなさい。

問三

——線部②「直線で四四〇〇キロの距離」とありますが、実際はどれくらいの距離を流れてきた可能性があると筆者は考えていますか。次のア～オの中から最も可能性の高いものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 二万キロ      イ 八万キロ      ウ 一〇万キロ      エ 二十万キロ      オ 四〇万キロ

問四

本文中の（ 2 ）にあてはまる言葉を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 不運      イ 不利      ウ 不滅      エ 不振      オ 不幸

問五

本文中の（ 3 ）にあてはまる言葉を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大器晩成      イ 一朝一夕      ウ 一心不乱      エ 一举兩得      オ 不撓不屈

問六

——線部③「第四十七号の手紙」はどのような経路をたどって、サハリンのシェブニノ村に着いたと考えられますか。わかりやすく説明しなさい。

問七 本文中の（ 4 ） ～ （ 9 ） にあてはまる言葉を、次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア そして      イ しかし      ウ しかも      エ では      オ ちなみに      カ まず

問八 本文の組み立ての説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他人から聞いた話をはじめに述べて、最後に自分の感想を述べている。

イ 他人から聞いた話をはじめに述べて、自分の調査したことを後に述べている。

ウ 海流瓶<sup>びん</sup>の実験結果をはじめに述べて、専門家の意見を後に述べている。

エ 海流瓶の実験結果をはじめに述べて、計算結果を後に述べている。

問九 本文の内容として正しいものを、次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア Sさんの一九八〇年の調査は、太平洋の壮大な自然の動きを明らかにするという結果につながった。
- イ Sさんは手紙を流して信濃川の流れを調べることにしたが、海の流れには関心がなかった。
- ウ ミッドウェイ島に流れ着いた手紙の件は、新聞にも取り上げられた。
- エ 海流瓶は回収率が二、三パーセントと低いので、環界面から見てもよい調査とは言えない。
- オ Sさんの手紙は長い距離と時間をかけて太平洋の中程の島の人に届いた。

問十 本文中の手紙になったつもりで、自由に航海記を二百字以内で書きなさい。



\*実際の解答用紙はB4判です。

四

問一	ひろつて	いっどこ	問二	をくだき	問三		問四		問五		問六		問七	4	問八		問九		問十	
	はおてがみ												5	6	7	8	9			

小計 四  
\*

受験番号		
------	--	--

氏名	
----	--

得点	*
----	---

\*印のところは、何も記入しないでください。







# 合格者正解率

# 国語

## 第2回 2月1日午後 (%・100点満点)

① 漢字	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
	41.5	21.2	92.4	89.8	92.4	33.1	77.1	19.5	16.9	30.5			
② 語句	1	2	3	4	5								
	96.6	94.1	95.8	95.8	94.9								
③ 視写	70.0												
④ 長文読解	1	2	3	4	5	6	74	75	76	77	78	79	
	89.0	40.7	24.6	66.9	43.6	6.6	58.5	73.7	78.8	59.3	65.3	83.1	
	8	9	10										
	54.2	58.9	38.0										

☆合格者平均点 58.4

☆合格者最高点 84